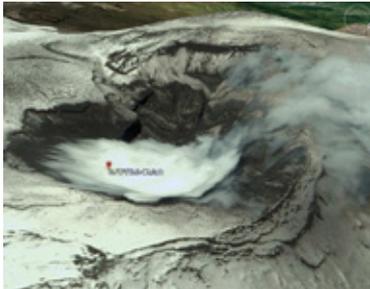


なぜ私たちは火山を知る必要があるのか

前回のジオパーク通信では、火砕流についてふれましたが、今回は、「なぜ火山を知る必要があるのか」について、コロンビアで起きた噴火災害の事例をもとにお伝えします。

① 1985年コロンビアでの事例



ネバド・デル・ルイス火山の火口部 (Google Earth)

コロンビアのネバド・デル・ルイス火山は、山頂部が氷河で覆われた、標高 5,399m の高い山です。1985 年 11 月、ここで噴火が始まりました。

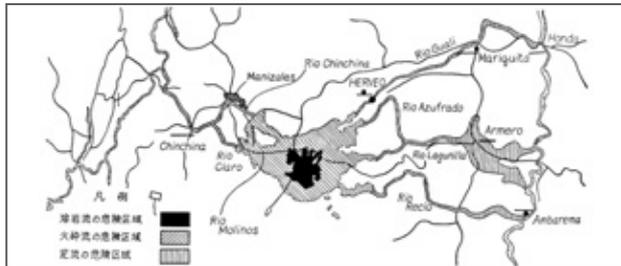
② 融雪型火山泥流が発生



泥流によって埋まった地域 (藤井・池谷 1986)

火砕流や火砕サージが大量の雪氷を溶かし、噴火開始から約 8 時間後、大規模な泥流が発生。山麓のアルメロ市やマリキタ市などを襲いました。

③ ハザードマップは噴火前に作られていた



ネバド・デル・ルイス火山の防災マップ (藤井・池谷 1986)

ハザードマップがあったにも関わらず、多くの住民が危険地区にいたため、泥流による犠牲者が 2.3 万人を超える大災害となりました。

④ 噴火災害から身を守るために



火山の噴火は火砕流や泥流などの危険な現象が発生します。災害から身を守るためにも、ハザードマップ等の情報を確認し、火山をよく知ることが大切です。

第 10 回日本ジオパーク全国大会 2019 おおいた大会が開催されました

2019 年 11 月に大分県で日本ジオパーク全国大会が開催されました。大分県には 2 つのジオパークがあり、火山活動で生まれた大地や島々を見ることができます。洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会では、ポスター発表やブース展示を通じ、ジオパークの取組を紹介しました。



おおいた姫島ジオパーク
観音崎



おおいた豊後大野ジオパーク
原尻の滝



ブース展示の様子